

(感想)

- 一方的に話を聞くだけでなく、途中で演習が入ったのがとても良かった。演習が入ることで、課題に対して自分の頭で考えることを通して、研修の目標(学校現場の危機対応のあり方)を実感しながらとらえることができたと思う。
- 危機管理論も「リスクマネジメント」と「クライシスマネジメント」の二つで整理されていて、とてもわかりやすかった。
- 擬似体験とはいえ、クレーム対応を体験できたので、自分の言動について見直すいい機会となった。
- 身近で切実な問題を、演習を通しての研修だったため、自分の対応の仕方を改めて見つめることができた。
- 「学校現場における危機対応の在り方」という大きなテーマで、危機管理とは何かという理論編から、クレーム対応の役割演技を含めた実技編までとても内容の濃い研修でした。
- 7月の豪雨・新型インフルエンザと危機管理に関わる事案が続いているときで、何を優先するのか、タイミングのいい時期でした。
- 演習もあり、新学期を前に、学校のことを振り返るいい機会でした。
- 危機を「個人レベル・学校レベル・地域社会」で分類することや「重要度・発生率」で得点化すること、また、それを「マトリックス」に表すという危機の洗い出しの手法はこれからの危機対応に多いに役立ちそうです。頭をすっきり整理していただきました。
- 主幹教諭という立場として、どう日ごろから学校全体を見、どう対処していったらいいのか、分かりやすい講話でした。
- 日々の状況に絶えず目を配り、学校現場の「今」に通じ、役立つ研究内容の最先端を教えていただいた気がします。
- 先生のエネルギッシュな話しぶりにひきつけられました。